

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771200314		
法人名	(有)エイトサービス		
事業所名	グループホーム熊取		
所在地	大阪府泉南郡熊取町五月ヶ丘2丁目18番19号		
自己評価作成日	平成24年9月18日	評価結果市町村受理日	平成24年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・春と秋の2回利用者・家族・職員みなで行楽地(水族館や花鳥園・バーベキュー・桜の花見など)へ出かけることが毎年恒例のイベントとなっている。その他にも買い物や食事で外出する機会を多く持っており、認知症になっても今までと変わらず他者と交流し楽しく過ごせるように努めている。</p> <p>・散歩や体操を日課としており、体力の維持・向上につながっていると思われま。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>経営母体の(有)エイトサービスは、社名にあるように八つのサービスの提供を目指している。ゆとり、豊かさ、優しさ、安らぎ、ふれあい、笑顔、いたわり、思いやり、の八つである。この法人は、府下など一円に9ヶ所の事業所を有するが当事業所は、その内の一つで平成14年に設立された。</p> <p>当事業所の特色は、利用者の平均年齢に比べて介護度が非常に低いことである。外気に触れる機会を出来るだけ多く作っている。毎日、朝夕の最低2回という。アクティビティも外で行う。夕方は周辺を散歩するため近所の子ども達とも顔馴染みになっている。職員のモットーは、バリデーション精神で利用者に接する事という。とにかく、利用者に寄り添い、受容することである。介護度の低いのも理解できる。職員は「毎日の仕事が楽しい」と一様に言う。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者・職員間ではもとより、家族や地域住民、その他関係者がともに支えあい楽しく生活できる環境を目指している。職員会議では全員で理念を確認し合い、常に相手の気持ちになり日々のケアにあたるよう努めている。	「ともに笑い、ともに感じ、ともに歩む」と、地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、事業所独自の理念を作りあげている。その理念を事業所内に掲示して、全職員は日々確認しながら共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の散歩は毎日行っており、近隣の方とは顔馴染みとなっている。	天気の良い日は、ほぼ毎日事業所の付近をコースを変えながら散歩をし、近隣の方々とは挨拶を交わし顔馴染みになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では毎回認知症高齢者の介護の方法や工夫を事例をもとに具体的に説明しているが残念ながら自治会の協力が得られず地域住民代表は決まっていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見や質問(返答)内容は職員会議で報告しサービスの向上に活かせるよう話し合っている。	利用者、利用者家族、役場担当者、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加して隔月に開催している。会議では、サービスの取り組み状況の報告だけでなく、意見や提案を受けサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。制度改正時など不明なことがあれば連絡を取り協力を得ている。	町役場担当者とは、運営推進会議やケアマネ連絡会議等を通して、また、都度役場へ出向いて行って報告だけでなく相談をしている。自治会や近隣との関わりについての指導も受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会・話し合いを行い、ケアに取り組んでいる。1名身体拘束が必要な方はいるが最小限で行い、解除に向け十分話し合っている。	身体拘束によって利用者本人に与える身体的、精神的苦痛を理解し身体拘束ゼロに向けたケアに取り組んでいる。時に、不穏状態や興奮状態の見られる利用者について、その原因を見極め取り除くようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会・話し合いを行い、ケアに取り組んでいる。小さなけがや内出血も見逃さないよう周知を図り、原因の究明に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などにより学ぶ機会を持ち、活用できるよう支援している。成年後見制度及び日常生活自立支援事業を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容をすべて読み上げ、疑問点には十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは意見や不満を言いやすいよう1対1で話をする機会を作っている。家族へも面会時には積極的に聞くようにしている。	利用者や家族等とは、日頃の会話や様子の中から、また、運営推進会議の中から、意見・要望等を聞き出し運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月職員会議を行い、意見や提案を反映させている。	月に一度の職員会議でシフトの問題、行事計画など運営に関する意見や提案の機会を設けている。 また、個別面談も日頃の活動の中から管理者が行い、運営改善に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価表を用い、勤怠・業務・勤務態度・協調性・積極性などを把握し、職員の処遇へ反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会を確保している。働きながら技術や知識を身につけられるよう個々に応じた指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議を定期的に行い交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前本人との面談を行い、十分話を聴くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前家族とも面談を行い、十分話を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ADLや健康面・精神面など十分話を聴き、適切な支援が受けられるよう見極め助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設の理念でもあり、本人と『ともに』の実践に努めている。本人に合った役割や出番を見出し、常に一緒に行うことに心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活歴の聞きとりなどから関係の理解に努めている。中立の立場で良い関係が築けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙のやり取りは自由にできるよう支援している。	利用者本人が今まで関わってきた地域社会との関係を継続して行くために、馴染みの店へ買い物に出掛けたり、美容院やお墓参りなどを、家族の協力を得ながら利用者一人ひとりに対応した支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握している。職員が間に入り孤立せず仲良く過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えや転院の際などは文書や電話などで関係者へ情報を伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で話している内容や訴えの中から気持ちを察し、意向を把握するよう努めている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を、日々の関わりの中で把握に努めている。困難な場合は日々の活動の中から興味関心を見つけ出したり、家族や関係者の中から聞き出しケアプランに活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人・家族・関係者(ケアマネジャーなど)からの聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動障害など目立った症状だけでなく、現状を総合的に捉え記録していくことで状態の把握と共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・ケアカンファレンスを定期的または必要時に行い、本人の視点で検討し作成している。	介護計画の期間は一応3ヶ月としているが、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、変化が起きた時にはその都度、臨機応変に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、勤務前には目を通し情報を共有しケアに活かしている。また介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望者には内科・歯科の往診が受けられる。訪問理美容や外出の支援なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々ボランティアと協力し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医で医療が受けられるよう家族と協力し支援している。かかりつけ医を持たない方に対しては本人・家族の同意と納得の上、事業所の協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。	かかりつけ医は、本人や家族等の希望する医療機関になっている。また、受診や通院支援についても利用者本人や家族等の希望に応じて対応するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は看護師資格を有するため、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は様子を見ながら、できるだけ早期に退院できるよう病院関係者また家族と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早い段階から予測される状態について話し合い方針を共有するようにしている。	重度化した場合の対応のあり方について、事業所の指針を作成、対応しうる最大のケアについての説明をし、都度同意書を交わしながら、その方針を共有、家族等の納得の出来る支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を定期的を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を2回／年実施し、具体的な避難方法を話し合っている。地域との協力体制はとれていない。	年2回、防災訓練を夜間想定も含めて実施している。自治会の理解が得られていないので地域との協力体制は完全ではないが、職員の殆どが近隣のため夜間体制は出来ている。食糧や飲料水の備蓄は行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格を理解し、思いやりのある言葉かけや対応に努めている。	食事介助やトイレ誘導などにおいて、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が見られた。個人情報も第三者の目に触れないように保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や外食の支援などで、自分で選択してもらえるよう働きかけたり、普段の生活での様子から思いや望みの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ余裕をもって接するよう心掛けている。言葉での意思表示が困難な方へは表情や行動などから真意を推測するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など自分の好みでまた季節に応じた服装ができるよう支援している。特に外出時には化粧をしたり、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食であるため利用者に盛り付けやみそ汁の具のカットなどをお願いし協力し食事の準備を行っている。週に1回は旬のものや好みのもを取り入れ手作りしている。毎週土曜日にはおやつ作りも一緒に行っている。	給食会社の食事ではあるが、利用者は盛り付けを職員と共に行っている。週に一度は、アンケートを元にして行事食を一緒になって作っている。しかし、食事の際、職員は介助に徹し家庭的な雰囲気には少し欠けている。	食事は、暮らし全体の中で楽しみの一つとして非常に大きなウエイトを占めている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで同じ物を楽しく食べる家庭的な雰囲気を是非作りあげて欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日チェックし記録している。一人ひとりの好き嫌いを把握し、食事・水分量が低下の場合には好みのもので補うように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行い、失敗を減らしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく一人ひとりをトイレ誘導するなどして、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より運動や水分摂取の促しを行っている。便秘の方には腹部マッサージを行い排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全面を考え職員の多い日中での入浴としているが、希望者へは時間・曜日を変更し対応している。無理強いすることなく、一人ずつゆっくり入ってもらっている。	入浴の曜日や時間は、ある程度は決めているが、利用者のこれまでの生活習慣に合わせた入浴が楽しめるよう個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて睡眠・休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書により各自で目的や副作用・用量などの理解に努めている。服薬の変更あればその都度周知できるよう引き継ぎを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を分担したり、役割を持った生活の支援をしている。レクリエーションや趣味の促しにより楽しみ事気晴らしの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春と秋の行楽、外食や買い物などで戸外に出る機会を多く作っている。近所の散歩は毎日行っている。希望あればその都度出かけられるよう支援している。	外気に触れる機会を、一日に二回設けている。朝は、全員が外へ出て体操をする。そして、夕方は比較的遠くまで出会った人々と声をかけながら挨拶をしながら散歩をする。時には、近くのスーパーまで買い物に出掛けたりもする。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりが自由にできるよう支援している。頻回で家族の負担となる場合には家族とも十分話し合うようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、テレビや音楽の音量にも配慮し、居心地良く過ごせるよう努めている。	ゆったりしたリビングルームでは利用者がソファで、それぞれがテレビを見たり、仲間同士が話し合ったりしてくつろいでいる。テーブルには季節の花が飾ってあるなど、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何力所かに椅子ソファを配置しており自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の中で生活できるよう、入居時には本人や家族と相談し持ってきてもらっている。	居室は馴染みの家具、家族の写真、利用者の手作りの作品で飾り、個々の利用者の居心地の良い居室づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	起立がしづらい方には自分で立ち上がりやすい椅子に座ってもらったり、手すりや杖など補助具を用い安全で自立した生活が送れるよう支援している。		